専門分野

小児看護学

シ　ラ　バ　ス

科目名	小児看護学総論	単位	1	時間数	30	開講時期	1年次後期	担当者	教員
学習のねらい	子どもの健やかな成熟のためにも小児看護の果たす役割は大きい。小児看護の対象である子どもについて理解を深めるためにも、成長・発達を学び、現代の家族や社会の状況といった子どもを取り巻く環境についても理解する必要がある。小児看護の基礎となるよう学習していく。								
目的・目標	目的；乳児期から思春期までの子どもの成長・発達を学び、子どもへのかかわり方のポイントを理解する。 　また、子どもをとりまく環境、小児看護の特徴について学ぶ。 目標； １．小児看護の特徴について説明することができる。 ２．子どもを取り巻く社会について説明することができる。 ３．子どもの成長と発達について説明することができる。 ４．乳児期にある子どもの健康増進と家族への支援について説明できる。 ５．幼児期にある子どもの健康増進と家族への支援について説明できる。 ６．学童期にある子どもの健康増進と家族への支援について説明できる。 ７．思春期にある子どもの健康増進と家族への支援について説明できる。 ８．子どもの健康と安全について説明することができる。 ９．子どもの人権や権利について考えていくことができる。								
授業計画	1回　(45分×2)　子どもの特性 2回　(45分×2)　子どもの人権と権利 3回　(45分×2)　子どもの成長と発達 4回　(45分×2)　子どもと家族を取り巻く社会 5-6回　(45分×4)　新生児期にある子どもとその家族 7-8回　(45分×2)　乳児期にある子どもとその家族 9-10回　(45分×2)　幼児期にある子どもとその家族 11-12回　(45分×2)　学童期・思春期にある子どもとその家族 13-14回　(45分×2)　ワーク（成長発達の一覧表を作ろう） 15回　(45分×2)　筆記試験								
評価方法	提出課題（10%） 筆記試験（90%）								
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論・小児臨床看護総論　医学書院								
参考文献									
履修要件									

シ ラ バ ス

科目名	小児看護援助論Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講時期	2年次後期	担当者	小児救急看護認定看護師 教員
学習のねらい	成長発達過程にある小児の健康が障害されたとき、小児がどのように障害を認知し、身体的にはどのような反応を示すのか、科学的かつ客観的に捉え、そこから援助を導きだせる内容とする。 また、アセスメントの視点とアセスメントの技術にも成長発達と関連させ、理解できるようにしたい。小児特有の胎生期の状態と関連した悪性疾患や手術を受ける小児・慢性の経過をたどる小児の特性についても、小児の成長発達や家族システムの視点を入れ、理解できるようにしたい。								
目的・目標	目的；病気・障害をもつ子どもと家族の看護について理解することができる。 目標； 1．病気・障害をもつ子どもと家族の特徴と看護の役割について説明できる。 2．入院や外来、在宅や災害時における子どもと家族の看護について説明できる。 3．経過別の観点からみた子どもと家族の看護について説明できる。 4．子どもの成長発達を関連させたアセスメントの視点とアセスメント技術について説明できる。 5．症状を示す子どもの看護について説明できる。 6．検査・処置を受ける子どもの看護について説明できる。 7．子どもの虐待と看護について説明できる。								
授業計画	1回 (45分×2) 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 2回 (45分×2) 入院中の子どもと家族の看護/外来における子どもと家族の看護 3回 (45分×2) 在宅療養中の子どもと家族の看護/災害時の子どもと家族の看護 4回 (45分×2) 急性期にある子どもと家族の看護/周手術期の子どもと家族の看護 5回 (45分×2) 慢性期にある子どもと家族の看護/終末期の子どもと家族の看護 6回 (45分×2) 子どもの虐待と看護/障害のある子どもと家族の看護 7-8回 (45分×2) 子どものアセスメント 9-11回 (45分×6) 症状を示す子どもの看護 12-14回 (45分×6) 検査・処置を受ける子どもの看護 15回 (45分×2) 筆記試験 ※ 順序が変更になる場合があります								
評価方法	筆記試験（100%）								
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院								
参考文献									
履修要件	小児看護学総論を履修していることが望ましい。								

シ　ラ　バ　ス

科目名	小児看護援助論Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講時期	2年次前期	担当者	小児科医師
学習のねらい	小児の健康障害を理解するには、成長発達を理解することから始まる。その知識を基盤とし、病態生理だけでなく成長発達による障害も考慮する必要がある。さらに、遺伝子レベルの影響も受けるため、胎内生活の環境も関連させた知識が必要となる。診断の進め方や検査、治療とも関連させ、小児看護を実践するための土台を学習していく。								
目的・目標	目的；小児特有の疾患について理解することができる。 目標；小児特有の疾患の原因とその変化について説明することができる。								
授業計画	1回　(45分×2)　小児の感染症 2回　(45分×2)　染色体異常 3回　(45分×2)　小児の血液疾患 4回　(45分×2)　小児の神経疾患、重度心身障害児 5回　(45分×2)　小児精神疾患 6回　(45分×2)　新生児・低出生体重児 7回　(45分×2)　呼吸障害 8回　(45分×2)　内分泌代謝障害① 9回　(45分×2)　内分泌代謝障害② 10回　(45分×2)　循環器疾患① 11回　(45分×2)　循環器疾患② 12回　(45分×2)　消化器疾患 13回　(45分×2)　腎・泌尿器疾患 14回　(45分×2)　アレルギー 15回　(45分×2)　小児の救急 (45分)　筆記試験								
評価方法	筆記試験（100%）								
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論・小児臨床看護総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　医学書院								
参考文献									
履修要件	小児看護学総論を履修していることが望ましい。								

シ　ラ　バ　ス

科目名	小児看護学演習	単位	1	時間数	15	開講時期	2年次後期	担当者	教員
学習のねらい	健康障害をもつ子どもとその家族に対して、小児看護に必要な知識と技術を統合させながら適切な援助について理解を深める学習をする。								
目的・目標	目的； 　健康障害をもつ子どもとその家族に必要な病態・対象の背景などの情報を整理し全体像を理解する。さらに、対象に起きている現象や反応を解釈し適切な援助に導くための思考過程について理解する。 目標； １．小児の成長発達について想起することができる。 ２．入院を必要とする子どもと家族の看護について想起することができる。 ３．小児特有の疾患の病態生理・治療・看護について想起することができる。 ４．対象に関する情報を整理し、全体像が理解できる。 ５．対象に起きている現象を解釈し、適切な援助を考えることができる。 ６．小児看護学実習Ⅱに対する期待が高まる。								
授業計画	１回　(45分×2)　小児の特徴、小児各期の病気や入院の理解 ２回　(45分×2)　親子とのコミュニケーション、場面記録（外来編） ３回　(45分×2)　小児看護におけるアセスメント、事例展開：情報の整理・解釈 ４回　(45分×2)　事例展開：場面考察（入院編）① ５回　(45分×2)　事例展開：場面考察（入院編）①のクリティーク、場面考察（入院編）② ６回　(45分×2)　事例展開：援助に必要な視点を考える、小児看護における倫理原則と子どもの権利 ７回　(45分×2)　プレパレーションの準備 ８回　(45分)　プレパレーション（発表会）								
評価方法	提出課題（90%） 参加状況（10%）								
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論・小児臨床看護総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　医学書院								
参考文献									
履修要件	基礎看護援助論Ⅷ、小児看護学総論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習Ⅰを履修していることが望ましい。								